



優秀賞

千葉県 船橋遊技場防犯組合  
「市民のための災害対策支援」事業



船橋遊技場防犯組合 組合長  
織田信幸さん



藤代 船橋市長に災害時物資搬送用リヤカーを贈呈する織田 組合長と組合役員

## 地域住民の防災意識の向上をめざし

地震大国といわれる日本では、1995年(平成7年)の阪神淡路大震災を契機に、人々の防災意識が高まり、防災対策の重要性が再認識された。以来、多くの地方自治体が防災まちづくりに取り組んでいる。防災まちづくりとは、災害に強い地域社会の形成にほかならない。しかし、このようなまちづくりは、行政単独による取り組みだけでは不十分であり、市民や企業をはじめとした地域構成員全体が参加してこそ成し遂げられるものであろう。大切なのは、行政、市民、企業の連携であり、平時から地域の防災に関する情報や認識を共有し、事前に協力関係づくりや対策を進めることで、来る災害に備えることである。娯楽やレジャーを提供する遊技業者もまた、地域構成員として果たすべき役割があるといえる。

従来よりさまざまな分野で積極的に社会貢献活動に取り組んでいる船橋遊技場防犯組合では、阪神淡路大震災を教訓として、防災対策の重要性を認識し、2007年(平成19年)の組合会議において、防災対策事業を積極的に支援していくことを決議。船橋市役所の防災課と協議を重ね、住民の防災に対する意識の向上を図るとともに、災害発生時に必要となる物資の支援を行うことを決定した。

船橋遊技場防犯組合はまず、災害時に緊急避難場所での緊急物資の運搬を容易にするための支援として、2007年(平成19年)8月3日、災害発生時に住民の緊急避難場所として指定されている市内55の小学校すべてに、リヤカー55台を寄贈した。リヤカーは狭い路地などでも小回りのきく物資運搬用の折りたたみ式を採用、総額245万円相当の支援となった。現在、リヤカーは、各小学校で緊急時に備えて管理されており、生徒たちの防災に対する意識を高めるための教材として活用されるなど、さまざまな面での効用が認められている。

さらに組合は、翌2008年(平成20年)においても引き続き防災対策支援を行っていくことを決議し、市民の防災に対する意識の向上を図ることを目的に、12月25日、防災対策広報冊子3万部(総額約210万円相当)を船橋市に寄贈した。

## し、災害対策物資を支援



寄贈した冊子は2種類。「さまざまな災害からいのちを守る 新版 防災対策総合ガイド」は、地震をはじめ、火災、風水害などさまざまな災害について、知識編、実践編、準備編に分けて明確かつ具体的な対処方法を示した総合防災読本。また、「災害への備えはお済みですか? 家族で話そうわが家の防災」は、家族で取り組む防災対策にポイントをおいた実用的な一冊。いずれも防災情報の第一人者、故・廣井修氏(東京大学 社会情報研究所)の監修によるもので、災害に備えての準備や、いざ災害が起きた際の行動マニュアルをイラストを使ってわかりやすく紹介している。これらの冊子は、防災訓練や防災フェア、また市内各所で開催される防災講習会などで防災対策の教本として活用され、市民の防災意識の向上に役立っている。

この事業は、単に必要な物資の支援にとどまらず、住民への防災意識の普及につながったことが評価され、船橋市長から2年連続で感謝状が贈られている。さらに、今回の活動を通じて、遊技業界に対する行政当局の意識が好意的に変わってきたことは、喜ばしいことである。阪神淡路大震災から14年が経過し、震災の風化が危惧されるともいわれている。人々の防災意識は大きな災害の直後は高まるものの、時間が経つにつれて忘れてしまうという傾向があるのも事実だろう。「天災は忘れた頃にやってくる」という警句を持ち出すまでもなく、マグニチュード8クラスと予想される東海地震や首都圏直下型地震が懸念されるいま、組合が地域住民の防災意識の定着に向けて活動をはじめたことは、大いに意義のあることと思われる。